



日本で天守が現存する唯一の山城

備中松山城の現在の天守は1683年に水谷勝宗により修築されたものと伝えられています。  
 市街地の北端にある臥牛山に4つある峰のうちのひとつ小松山の頂を中心として城郭を備え、全国に12ある  
 現存天守を持つ城の中で、山城として天守が残っているのは備中松山城のみと、大変貴重なものです。  
 しかし1873年(明治6年)に廃城令が公布され、一帯は荒廃していきました。  
 天守が倒壊しかかったため、1931年(昭和6年)、1940年(昭和15年)、1960年(昭和35年)、2001年  
 (平成13年)と複数回の修築が行われました。

町全体で守ってきた備中松山城は1941年(昭和16年)に天守閣、二重櫓、土塀の一部が国の重要文化財  
 に指定されています。

### ◆ 施設のおすすめ

備中松山城の石垣は、岩の上に石垣を積み上げて作られています。また、天守や二重櫓も岩の上に建てられており、  
 その迫力は山城だからこそ見る事ができるものとなっています。

天守の中も見学することができますし、二重櫓も春と秋に高梁市のウェブサイトで告知し、公開しています。  
 他にも敵から守る仕組みが多くあり、土塀にある狭間や曲がりくねった通路、天守と二重櫓に作られた石落としや外  
 から中の様子が分かりづらい武者窓など工夫がたくさんあります。

歩いて登るので大変かもしれませんが、とても貴重な体験をできるお城になっています。

### ◆ 子どもたちへのメッセージ

日本全国で天守が残っているのは12か所しかなく、その中で山城として残っているのは備中松山城だけです。  
 そういった貴重な遺産が住んでいる地域の近くにあるということを知り、大変ですが歩いて登ってそれら施設を  
 見て学ぶことで、備中松山城と地域を誇るきっかけになればうれしいです。



天守1階



武者窓



急な階段



天守2階



重要文化財の二重櫓



重要文化財の土塀



石垣



自然の岩と石垣